

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議 次 第

〔 日 時 令和5年2月10日(金) 13:30～15:00 〕
〔 場 所 飯田合同庁舎 講堂 (Web 会議) 〕

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 伊那谷の強みを活かした重点的な取組について【資料1】

(2) 企業誘致の今後の進め方について【資料2】

4 報告事項

(1) リニア長野県駅（仮称）の駅前空間の検討状況について【資料3】

(2) リニア長野県駅の広域的な利活用検討の進め方について【資料4】

(3) 戦略的チャレンジの成果・課題・今後の方向性について【資料5】

5 閉 会

伊那谷の目指す方向性や重点的に取り組むべきこと に関する主なご意見

1 伊那谷の目指す方向性・地域特性

ア 環境先進地（雄大な自然を生かす）

- ・リニアで近くなるということに加え、時代の変化を掴んで、サステイナブル、SDG s など循環型社会の視点に基づいた発信が有効。
- ・伊那谷は SDG s 環境に対する意識が高く、冬も天候が良い。
- ・エネルギーも従来の化石燃料から太陽光だけでなく、小水力やバイオマスも活用し、省電力も進める。
- ・地理的な特性は、2つのアルプス。日本ではここにしかない。
- ・伊那谷の景観は素晴らしい。南向きで温暖で、災害も少ない。

イ 食料・エネルギー自立地域

- ・食料やエネルギーを自分たちで手立てできる、安心して暮らせる地域を目指し、わかりやすい言葉で発信していく。これがこの地域の魅力となる。
- ・森林活用や農業を強みとして、産業として外貨を獲得するというより、この地域だけで独立し、安定して生きていけるようにしたい。

ウ 教育や文化

- ・優先度が高いのは教育、人材育成。フィンランドの教育などを参考にしてみよう。
- ・芸術や音楽も重要な視点。地域の厚みが出る。

2 広域で重点的に取り組むべき事項

- ・リニア駅周辺の脱炭素街区等、水力発電を伊那谷全体に横展開する
- ・EV充電スタンドなどのインフラ整備
- ・太陽光発電の推進
- ・地元の農産物を地元で買う地域内循環の推進
- ・有機農業など環境配慮型農業の推進
- ・急峻な地形に適した最新の架線集材による主伐・再造林
- ・農業の担い手確保

◆ その他

- ・企業誘致は、通信環境の整備とセットで進めていく必要がある。ローカル5G、WIFI など環境が整っていない地域に企業は来ない。
- ・二次交通やDXのインフラ整備は確実に必要。
- ・二地域居住など新しい働き方が進んでいて、市民・住民の定義の見直しが必要。
例えば、住民票の2重発行、学校の短期間での転校など、住民サービスをフレキシブルに行うことができる地域として、伊那谷をリニア特区申請してはどうか。
- ・移住・定住のために、まずは伊那谷を知ってもらうこと。

伊那谷の強みを活かした重点的な取組について(たたき台)

伊那谷自治体会議事務局

リニアバレー構想策定から7年、戦略的チャレンジの取組着手から3年が経過し、構想の具現化に対する取組の進捗が課題となっている。また、この間の社会・環境の大幅な変化を踏まえ、改めて、地域の特性を活かし、伊那谷が国内外から選ばれる地域となるための重点的な取組について、県、伊那谷の自治体が連携し、取組に着手し、さらに加速化していくことが必要である。そのための今後の方向性について、ご議論をお願いします。

◆ 伊那谷の強み、特色に基づき目指すべき方向性(事務局検討素案)

～国内外から選ばれる伊那谷となるために～

○ 持続可能な環境共生先進地域づくり

(取組例)

- ・ 水力発電・バイオマス発電、太陽光発電によるエネルギーの自給自足
- ・ EV充電スタンドの伊那谷全体への面的整備
- ・ 主伐・再造林による木材の利用促進及びCO₂吸収力向上
- ・ 有機農業など環境配慮型農業の推進と地元農産物等の地域内消費の拡大

○ 豊かな自然環境と独自の文化などを活用した教育・学びの先進地域づくり

(取組例)

- ・ 信州やまほいくや山村留学など自然環境を活かした教育環境の整備
- ・ 伊那小などの取組や伝統芸能の活用にみられる特色ある教育の推進
- ・ 公民館での学びや大学と連携した学びの場の創出

環境先進地・エネルギー自立地域づくり

○環境省の環境モデル都市・脱炭素先行地域に選定されるなど全国的にも先進的な取組を推進（飯田市）

- ・地域マイクログリッド
- ・リニア駅周辺の脱炭素街区・スマートグリッド構築
- ・グリーンインフラ整備

○環境省地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）による脱炭素の取組を推進

- ・太陽光利用システム、木質ペレットストーブ等の購入補助、公共施設への導入等（伊那市）
- ・公共施設への太陽光発電設備設置等（箕輪町）

○環境先進地としてゼロカーボン社会実現への住民意識は高く、地域活動が活発

- ・レジ袋削減にみる先駆的な環境活動（プラスチックスマート推進）（南信州）
- ・一日一人当たりの一般廃棄物の排出量が県平均以下（上伊那）
- ・官民協働による独自のエコマネジメントシステム「いいむす21」（南信州）

○再生可能エネルギーの普及拡大

- ・長野県企業局と地元企業・自治体が連携した再生可能エネルギーの地産地消 企業局水力発電所数 伊那谷16か所／県内23か所
- ・再生可能エネルギー促進区域設定（箕輪町）

○豊富な森林資源の先進的な循環利用の取組

- ・木質ペレットの生産量が全県の約7割（上伊那）
- ・「50年の森林（もり）ビジョン」の策定（伊那市）
- ・循環経済型林業に取組む「木の糸コンソーシアム」（根羽村）
- ・山の放置木と地域通貨の交換により経済循環する「木の駅プロジェクト」（中川村）

○有機農業など環境配慮型農業の取組み

- ・学校給食への提供等により地産地消を進め、遊休農地解消にもつながる持続可能な有機農業の実践（松川町）

豊かな自然と雄大な景観

○天竜川沿いに形成された河岸段丘に美しい田園風景が広がる

○二つのアルプス（南アルプスと中央アルプス）に抱かれた雄大な自然が存在

- ・千畳敷カール（駒ヶ根市・宮田村） ・陣馬形山（中川村）
- ・高遠城址公園（伊那市） ・南アルプスジオパーク（伊那市・大鹿村）
- ・遠山郷、天龍峡、下栗の里（飯田市）

恵まれた自然環境を活かした学びの場

- **自然環境を生かした体験、仲間や地元の人々との関わりを通して、豊かな人間性を育む「山村留学」**
 - ・伊那谷10団体／県内16団体
 - フリーキッズ・ヴィレッジ（伊那市）、和合小学校親子山村留学（阿南町）
 - 混合通年合宿センター（阿智村）、山村留学センター売木学園（売木村）など
- **豊かな自然と温かな地域の中で、子どもたちを育む「信州やまほいく」**
 - ・伊那谷60団体／県内270団体
 - 山の遊び舎はらぺこ（伊那市）、野外保育もりっこ（中川村）
 - 自然保育 のっぱら（飯田市）、喬木南保育園（喬木村）など

- **他地域から注目を集める学びのカたち**
 - ・児童が日常的に学校林の中で過ごし、様々な学びに生かす（伊那西小学校）
 - ・豚の飼育や出荷で食物の大切さを学ぶなどの総合学習（伊那小学校）
 - ・保育園での学びを小学校へつなげる（平谷小学校）
- **豊かな「学びの土壌」を活かした、「学習と交流」**
 - ・地域の価値を理解し、誇りを持つ人を育む力（地育力（ちいきりょく））を活かした「ふるさと学習」や「キャリア教育」（飯田市）

公民館活動などの学びと自治

- **全国的に評価される公民館（飯田市）**
 - ・地域の課題は地域で解決するため、住民自らが事業を企画立案・展開するなど
 - 公民館本来の目的に則した活動を実践
 - ひさかたわしの紙漉き体験、天龍峡夏季大学、夏休み子ども寺子屋など
- **関係人口によるまちづくり**
 - ・多様性を尊重し、地域の魅力発信や賑わいづくりに取り組む「トビチ商店街」や地元と来町者をつなぐプラットフォーム「信州フューチャーセンター」（辰野町）
 - ・情報と交流の拠点、居場所づくり「伊那まちBASE」（伊那市）
 - ・放置竹林整備に関係人口が集まる「いなだに竹Links」（飯田市）
 - ・地域住民が教授となり、伝統芸能の伝承やきのこなどの山の幸のマーケティングを実践しながら、村の暮らしを学ぶ「秘境大学」（天龍村）

- **次世代の育成**
 - ・産学官、地域が協働して次世代の育成（キャリア教育）や地域づくりを実践する「郷土愛プロジェクト」（上伊那）
- **大学のあるまちづくり**
 - ・大学・研究者による有機的なネットワークでモデル的な研究・取組を地域とともに
に行う「学輪IIDA」（飯田市）
 - ・リニア時代に向けた新たな地域づくり（国土利用、環境政策、地域づくり・人づくり等）に寄与する「ランドスケープ・プランニング協働研究講座」（飯田市）
- **新校の協議・検討を通じた魅力的な学びのあるまちづくり**
 - ・伊那新校・上伊那総合技術新校（ともに仮称）（上伊那）

- **その他**
 - ・JICA、JOCAと連携した学びと交流のまちづくり（駒ヶ根市）、まちづくりへの意見提案・自主的活動を行う高校生や大学生「わかもの特命係」（高森町）

伝統芸能を始めとする独自の文化

- **民俗芸能の宝庫**
 - 国指定重要無形民俗文化財 伊那谷6団体／県内10団体
 - 国選択無形民俗文化財 伊那谷11団体／県内23団体
 - ・ユネスコ無形文化遺産に登録された「風流踊」（阿南町）
 - ・ユネスコ無形文化遺産登録を目指す「神楽」（飯田市、天龍村）
 - ・住民の手作りによる奉納花火「清内路花火」（阿智村）
 - ・伊那の人形芝居「古田人形」（箕輪町）「黒田人形」「今田人形」（飯田市）「早稻田人形」（阿南町）
 - ・農村歌舞伎として継承「大鹿歌舞伎」（大鹿村）「中尾歌舞伎」（伊那市）

- **地域の技、生活の知恵**
 - ・伊那紬（駒ヶ根市）
 - ・水引（南信州） ・阿島傘（喬木村）
 - ・わら細工、竹細工、炭焼きなど
- **食文化**
 - ・昆虫食（上伊那） ・和菓子（飯田市）
 - ・信州伝統野菜の宝庫（伊那谷30種／県内81種）

戦略的チャレンジ（企業誘致関係）のテーマの修正案及び取組み

【現行】

- ・ グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進
- ・ 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進

【修正案】

- ・ グローバル経済圏で活動する企業のサテライトオフィス誘致や、フルリモートで勤務する社員の誘致（二拠点居住・移住促進）
- ・ 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進

目指す姿

デジタルの力と地域の魅力を融合し、地域の価値を高め

**クリエイティブ人材や高度IT人材のはたらく場を創出
国内外から若者が次々集まるまちをつくる**

**【取組】 つながり（関係）人口創出・グローバル企業誘致事業
～リニアバレー最先端デジタル田園都市構築事業～**

⑧ つながり（関係）人口創出・グローバル企業誘致事業

～リニアバレー最先端デジタル田園都市構築事業～

産業労働部産業立地・IT振興課

1 目的

リニア中央新幹線の開業を見据え、周辺地域へIT企業の立地を促進させ、地域経済を活性化し、つながり（関係）人口の創出と若者が定着する魅力ある地域をつくる。

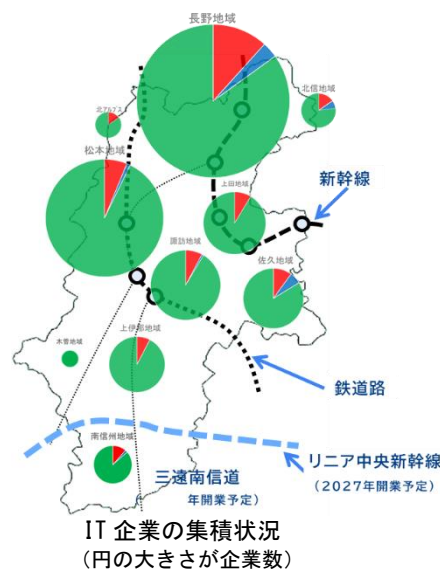
2 現状と課題

南信地域は、リニア中央新幹線の開業により、スーパーメガリージョン※が形成され、国内のみならず世界に対してインパクトを与える一大経済圏となる可能性を秘めている。

また、県内の他地域に比べ労働力人口比率が高く、また将来労働力人口となる15歳未満人口の割合も高いことから、企業が立地した際の人材確保も有利であるが、東北信地域と比べると、IT企業の立地件数が少ない状況で、人口減少社会での地域

労働力人口：東信 53.9% 南信 54.3% 中信 53.8% 北信 51.0%

15歳未満人口：東信 11.5% 南信 12.4% 中信 10.9% 北信 10.4%



※ スーパーメガリージョン

⇒2027年にリニア中央新幹線が開通することで、首都圏と中部圏と関西圏の3大都市が一つに繋がりが、巨大な経済圏が作り出される。首都圏、中部圏、近畿圏の総人口は8,200万人に上り、世界でも有数の巨大都市であるシリコンバレーの1,000万人を大きく上回る。

3 事業内容

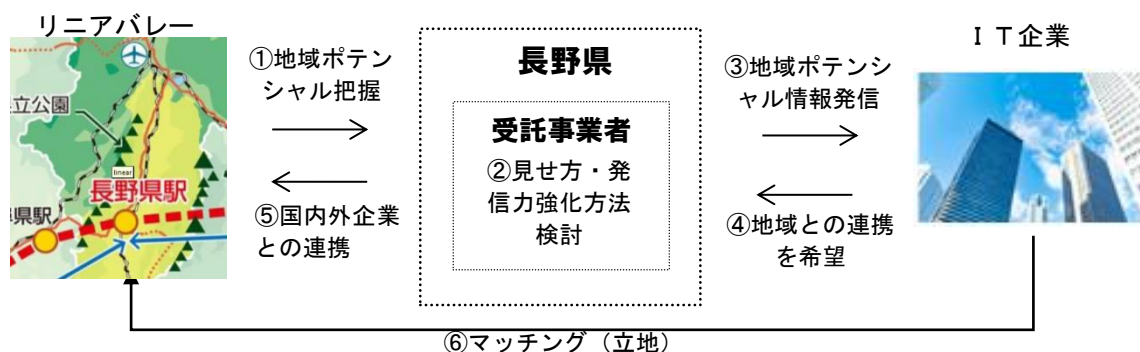
スーパーメガリージョンに組込まれる当該地域においては、ターゲットを世界ととらえ、グローバル展開する企業の立地を、地域振興局及び市町村、地域商工団体等と緊密に連携し取り組む。

具体的には、「おためし立地チャレンジナガノ リニア版」として、地域の持つポテンシャル等（強み・弱み）を発信し、マッチング・伴走支援を行い、GAFAMをはじめとしたグローバルに展開するIT企業を呼び込む。

これにより、地域の魅力を高め、クリエイティブ人材や高度IT人材の働く場を創出し、リニアにより世界とつながる伊那谷地域を若者が次々と集まるまちに変えていく。

4 取組内容

- (1) 地域のポテンシャル（強み、弱み等）把握
- (2) 地域ポテンシャル情報の発信・マッチング
- (3) 地域と国内外の企業との連携（つながり（関係）の創出）
- (4) 地域への定着のためのアプローチを実施



リニア駅ができるまち飯田



? リニアの駅って、 どーなるの?

実施設計（土木関係）の概要 〈抜粋版〉

令和4年12月4日 成果発表資料

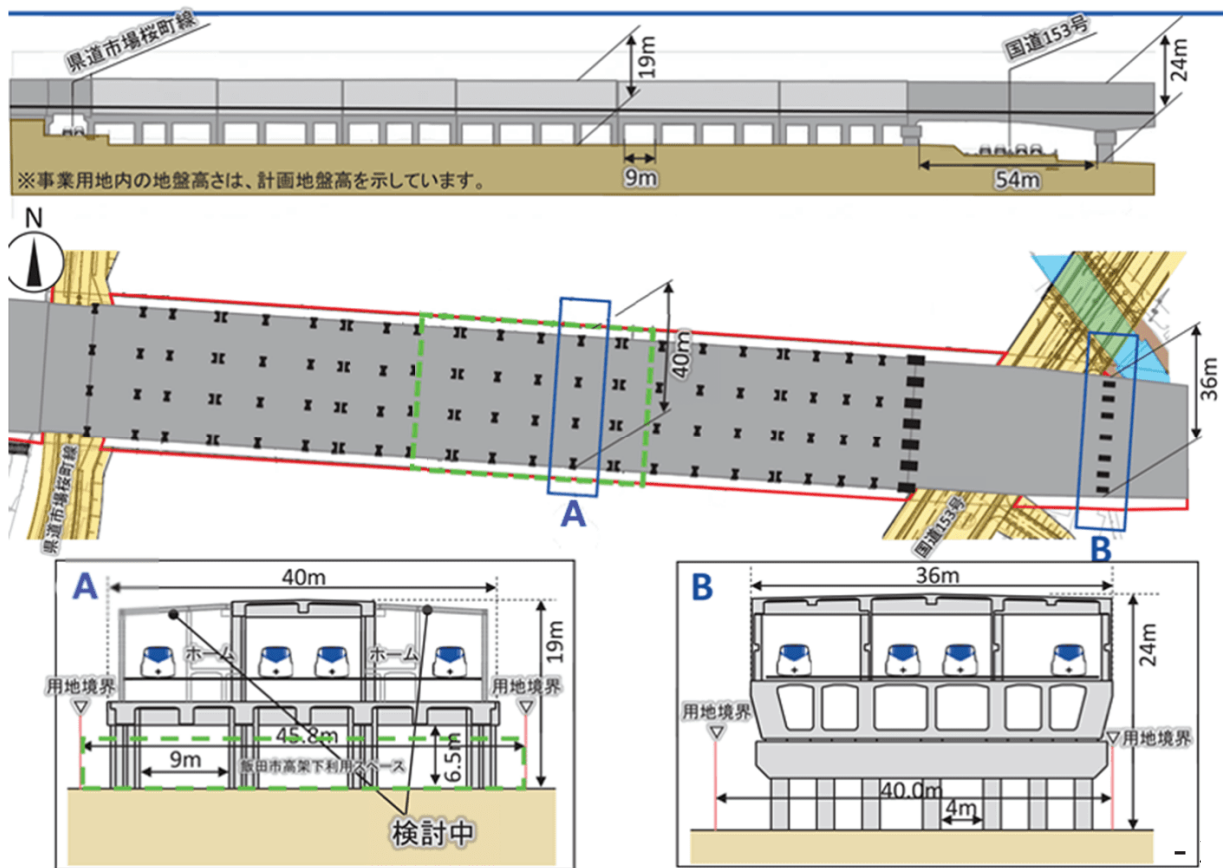
8

Ⅰ リニア駅前空間の概要（1 位置図）



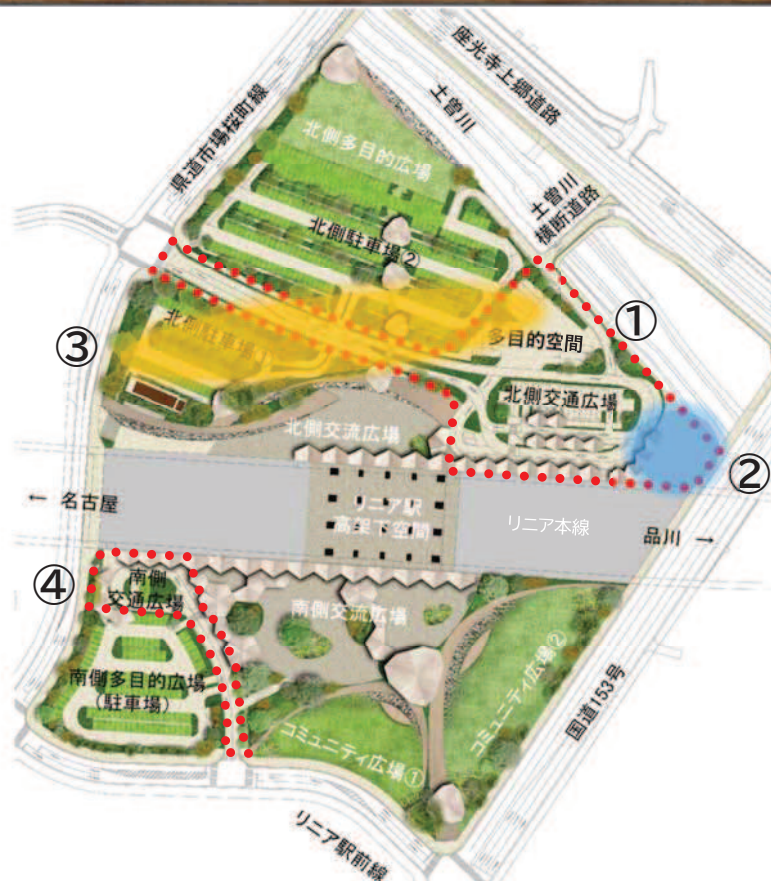
9

Ⅰ リニア駅前空間の概要（２ リニア駅の概要）

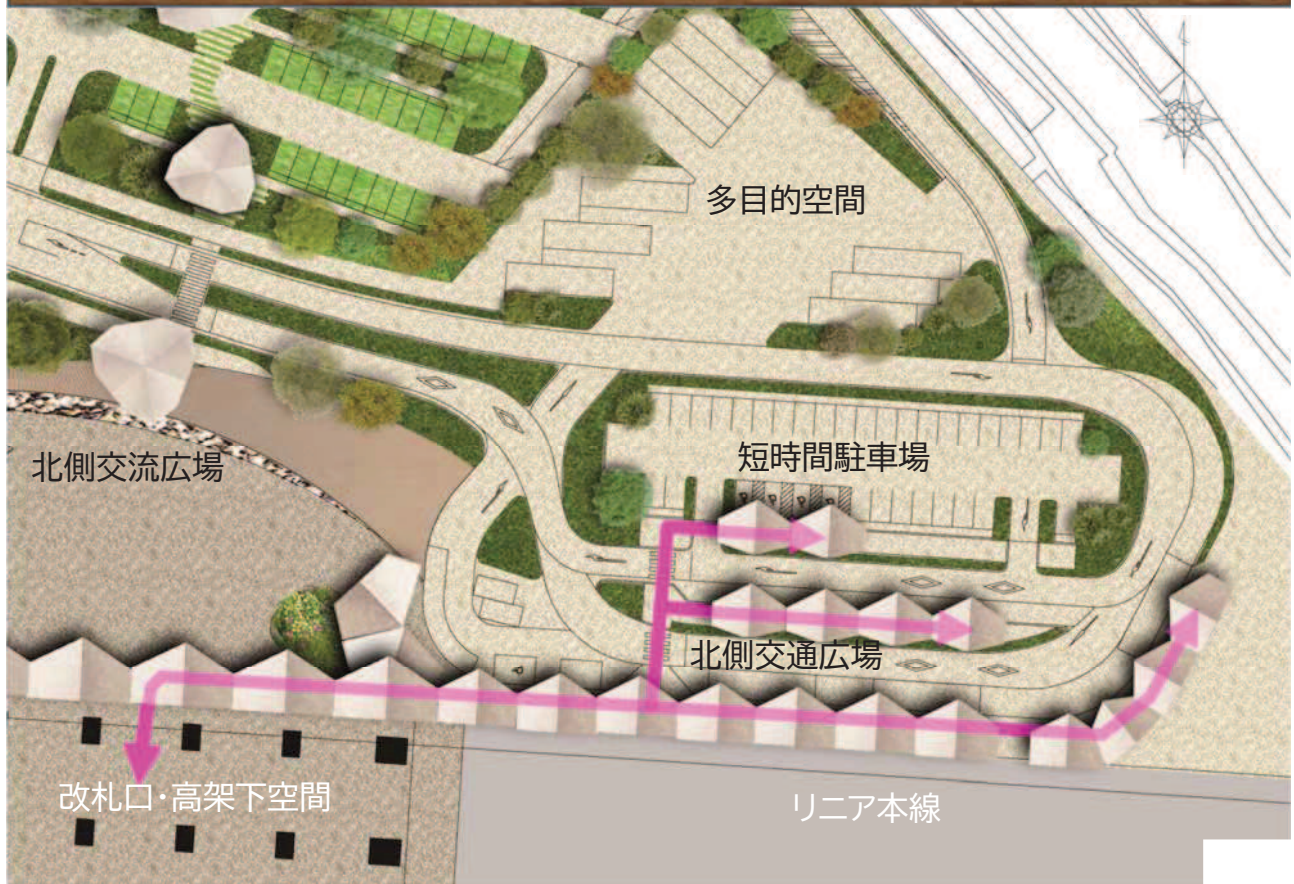


10

Ⅰ リニア駅前空間の概要（３ 平面図）



II 交通広場エリア（① 北側交通広場）



12

II 交通広場エリア（③ レンタカー・カーシェア等への対応）



13

II 交通広場エリア（④ EV等新たなモビリティへの対応）



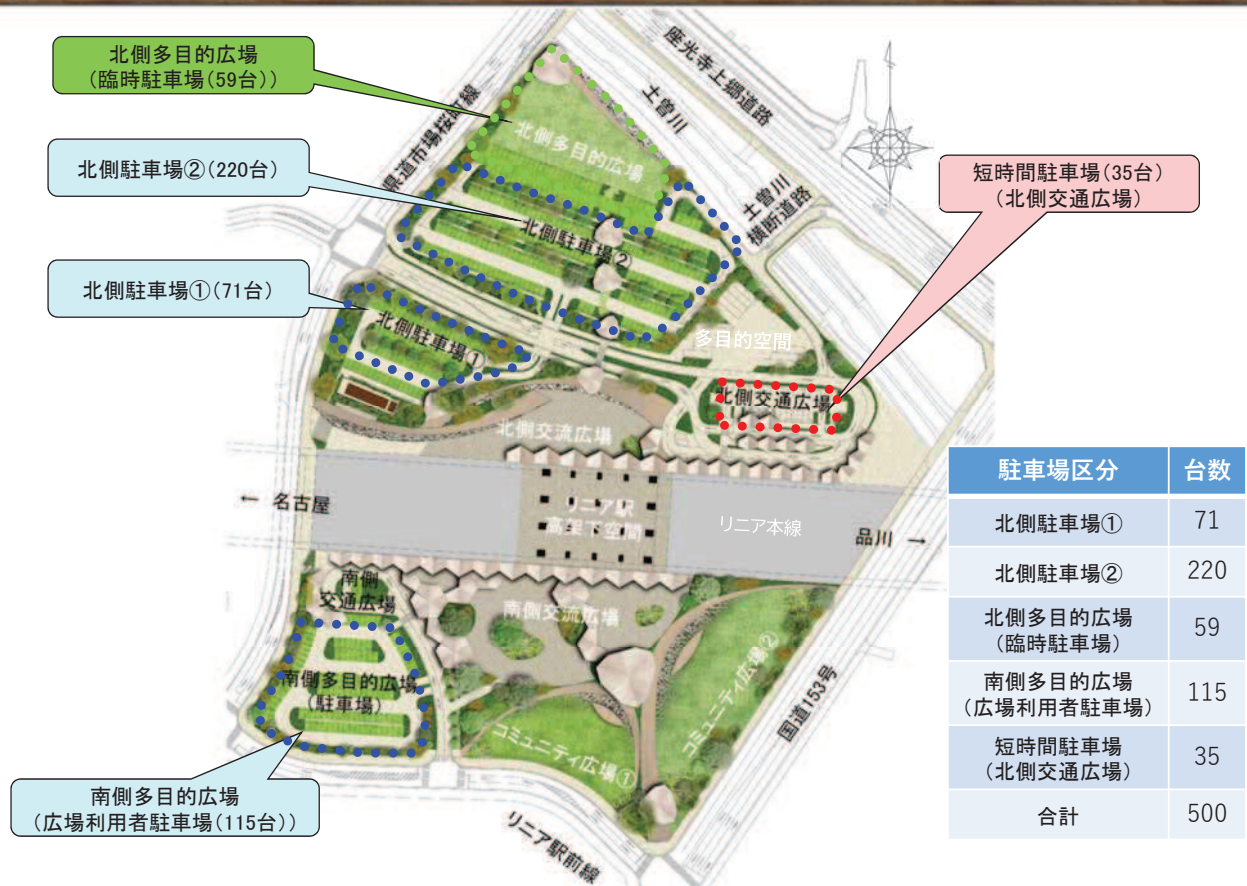
14

II 交通広場エリア（② 南側交通広場）



15

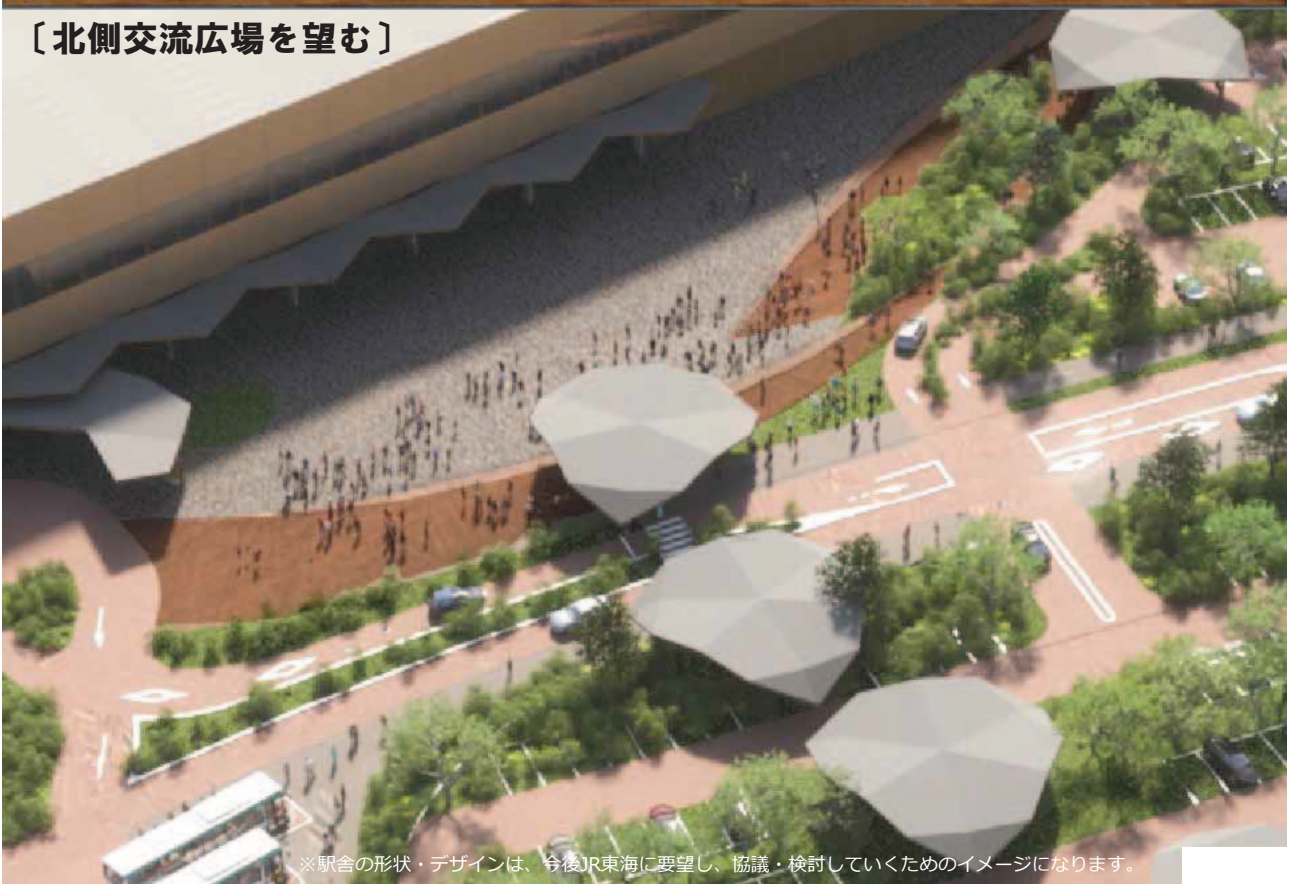
Ⅲ 駐車場エリア（駐車台数）



16

Ⅳ 交流広場・コミュニティ広場（1 北側交流広場）

〔北側交流広場を望む〕



17

IV 交流広場・コミュニティ広場（2 南側交流広場）

〔南側交流広場・コミュニティ広場を望む〕



※駅舎の形状・デザインは、今後JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージになります。

18

V リニア駅前空間のイメージ（鳥瞰パース）

〔北から南を望む〕



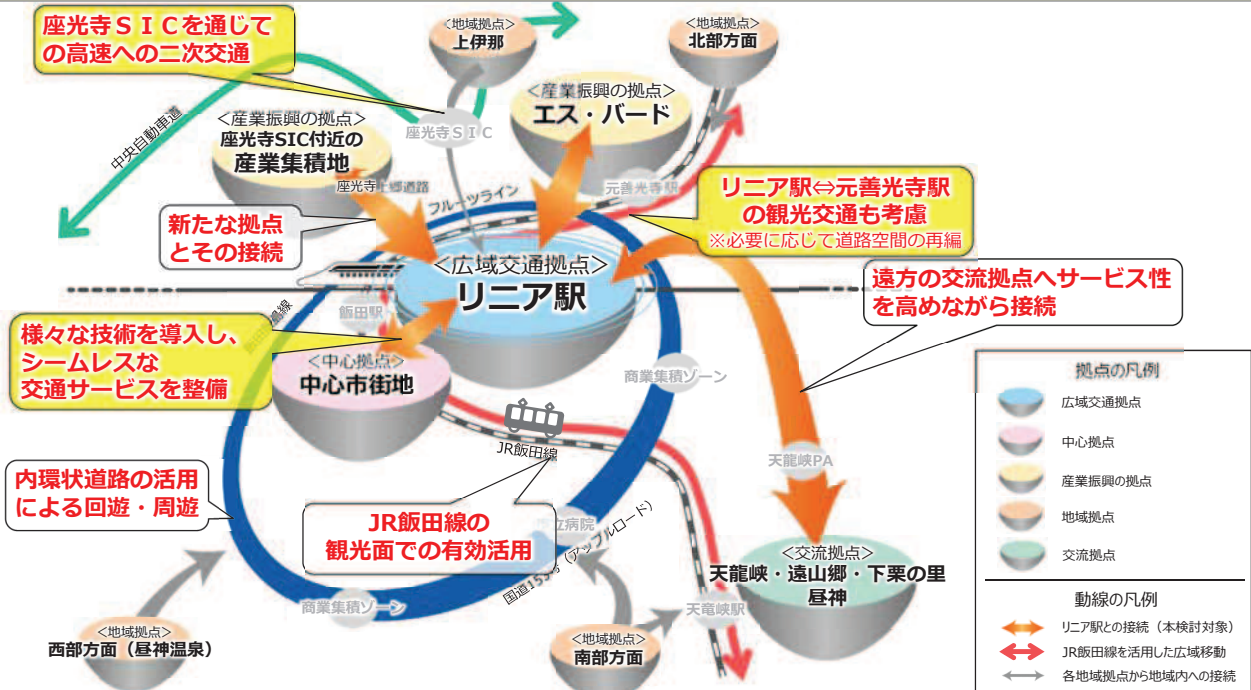
※駅舎の形状・デザインは、今後JR東海に要望し、協議・検討していくためのイメージになります。

19

J R 飯田線とリニア駅との接続方法

地域全体の交通環境改善を図ることができるよう、今後さらなる具体化を検討していく。

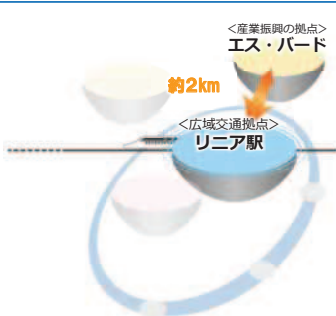
- ： 中心市街地をはじめ、各拠点とリニア駅との接続について、様々な技術を導入しつつ、高頻度・シームレスな交通サービスを整備を行う
- ： 地域の拠点や特徴をふまえた交通サービスを展開する



20

J R 飯田線とリニア駅との接続方法

■ リニア駅～エス・バード(元善光寺駅)



接続の考え方

- ・ 広域交通拠点（リニア駅）と産業振興の拠点（エス・バード）を接続
- ・ 広域交通拠点（リニア駅）と元善光寺及び元善光寺駅との接続

想定される利用者

- ・ 通勤や商談目的等のビジネスマンが迅速に拠点間を移動
- ・ 飯田市民、周辺町村住民のリニア駅との往来経路
- ・ 経路途中に位置する元善光寺への観光利用

重要視する機能（ビジネスと観光利用を両立する区間）

- シームレスな接続の確保
- 元善光寺等の観光拠点に立ち寄れる機動性

ビジネス（直通）



バス(有人)



小型自動運転バス

- [求められる機能]
- ・ 予約不要・速達性
 - ・ 長距離移動の手荷物を搭載可能な容量

ビジネス（立ち寄り）



タクシー



超小型モビリティ
(自動運転)

- [求められる機能]
- ・ 自由な目的地の設定
 - ・ ビジネスパーソン2～3人が乗車可能な容量

観光



徒歩

レンタル・シェアサイクル

人力車

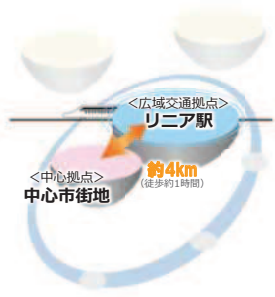


(搭乗型移動支援ロボット、
原動機付歩行補助車)

- [求められる機能]
- ・ 街並みや景色が見え、移動自体を楽しめる
 - ・ どこにでも停められ、気軽に観光ができる

J R 飯田線とリニア駅との接続方法

■ リニア駅～中心市街(飯田駅)



接続の考え方

- ・ 広域交通拠点（リニア駅）と中心拠点（飯田駅）を接続
想定される利用者

- ・ 飯田市民、周辺町村住民の**リニア駅との往来経路**
- ・ ビジネスマン等来訪者のリニア駅と中心市街地との往来
- ・ 飯田**市内の周遊**を兼ねた飯伊地域周辺への観光利用

重要視する機能（多目的に利用される重要区間）

- リニアのダイヤと併せた**短い運行間隔**
- シームレス**な接続の確保
- 市内の観光拠点に**立ち寄れる**機動性

住民のリニア駅アクセス

交通拠点間の移動

（参考） 市内の周遊

既存技術で想定される接続



バス(有人)



タクシー



レンタル・シェアサイクル

将来技術で想定される接続



小型自動運転バス

- [求められる機能]
- ・ 予約不要で市民が気軽に利用できる
 - ・ 長距離移動の手荷物を積載可能な容量



超小型モビリティ（自動運転）

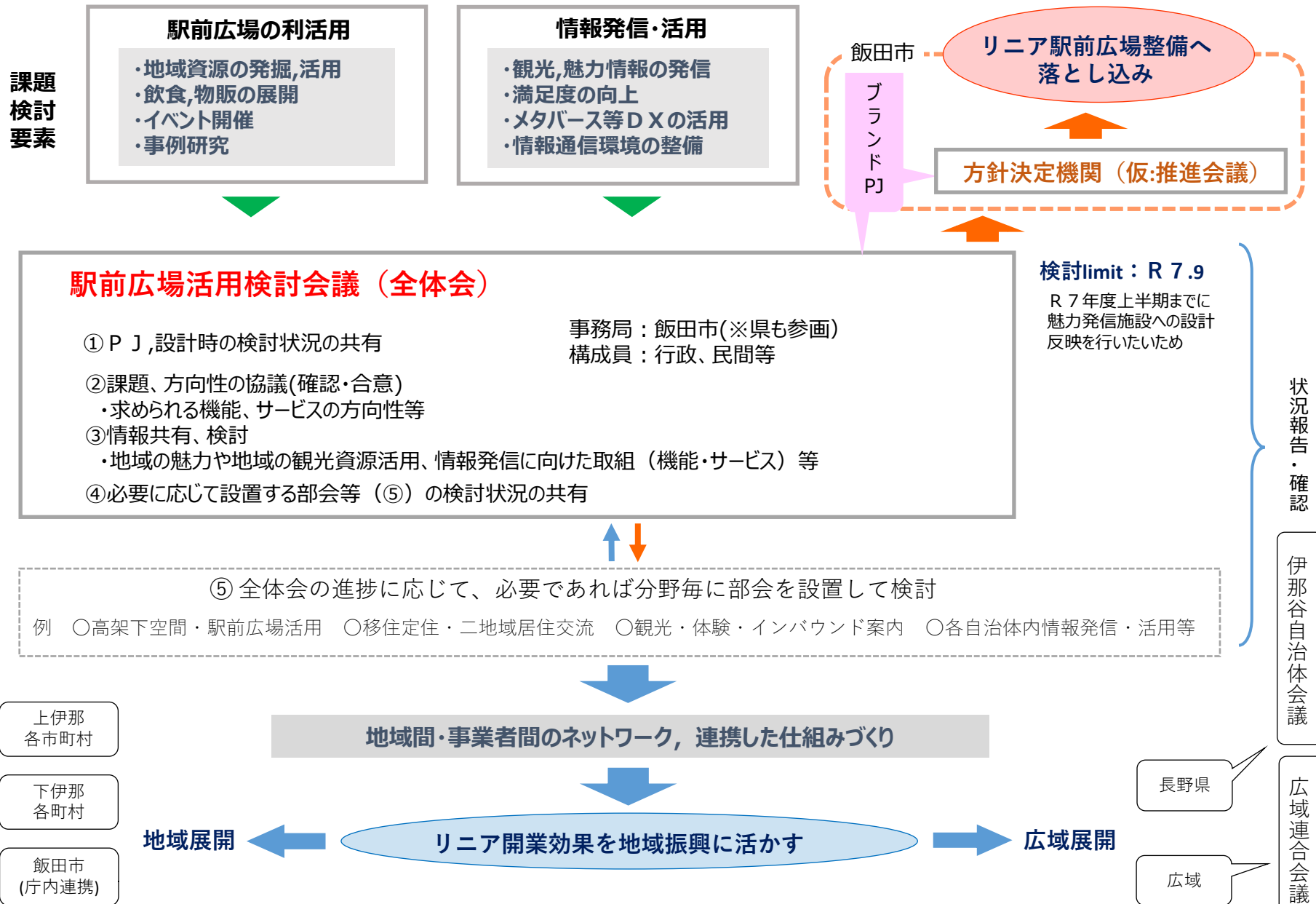
- [求められる機能]
- ・ 自由な目的地の設定
 - ・ ビジネスパーソン2～3人が乗車可能な容量



（搭乗型移動支援ロボット、原動機付歩行補助車）

- [求められる機能]
- ・ 街並みや景色が見え、移動自体を楽しめる
 - ・ どこにでも止められ、気軽に観光ができる

1 リニア駅前広場における魅力発信の検討体系 イメージ図(案)



2 リニア駅を基点とした交通関係の検討体系 イメージ図(案)

課題
検討
要素

交通体系

- ・方面別の移動
- ・各拠点との接続
- ・配車, デマンド, 駐車場
- ・観光, ビジネス対応

新たな交通システム

- ・MaaS, キャッシュレス化
- ・JR飯田線活用, 接続
- ・新たなモビリティの活用
- ・EV対応

飯田市

リニア駅前広場整備へ
落とし込み

次世代
PJ

方針決定機関 (仮: 推進会議)

① リニア駅アクセス検討会議 (全体会)

- ① P J , 設計時の検討状況の共有
- ② 課題、方向性の協議(確認・合意)
・リニア駅アクセス検討の進め方等
- ③ 情報共有事項
・交通体系の構築に向けた検討状況等
- ④ 各地域の検討状況 (B, C) の共有

事務局：飯田市(※県も参画)
構成員：②～④から行政、民間等が参加

検討limit：R 7 末

R 7 年度末までに駅前
交通広場の整備要素の
確定を行いたいため

状況報告・確認

伊那谷自治体会議

広域連合会議

⑤ 開業に向けた交通体系の検討等

② 二次交通検討

上伊那、木曽、松本・長野方面、南信州内
(交通担当課長会議など既存組織の活用による検討)

③ 三次交通検討

各市町村 ← 県 (地域振興局)、広域

上伊那
各市町村

下伊那
各市町村

飯田市
(庁内連携)

地域間・事業者間のネットワーク、連携した仕組みづくり

地域展開

リニア開業効果を地域振興に活かす

広域展開

長野県

広域

伊那谷地域の戦略的チャレンジ(具体的な取組) R2.3策定

豊かな自然環境と地の利を活かした持続可能な地域づくり

1 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす

- ① 景観形成、共通サイン整備【三風の会+南信州広域連合】
- ② 広域二次交通の整備【行政+民間事業者】
- ③ 移住定住・二地域居住のための住環境整備【市町村】
- ④ 自然を活かした教育環境の充実【市町村】
- ⑤ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体+市町村+地域振興局】

2 国内外から人を惹きつける地域をつくる

- ⑥ 周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備【広域DMO+観光機構】
- ⑦ アルプス等自然環境の活用【県環境部】
- ⑧ 伝統文化の保存継承、活用【南信州広域連合】
- ⑨ 国際交流・語学教育の推進【市町村】
- ② 広域二次交通の整備【行政+民間事業者】(再掲)

3 地域を支える産業の活性化

- ⑩ グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進【県産業労働部・地域振興局+市町村】
- ⑪ 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進【県産業労働部・地域振興局+市町村】
- ⑫ 産・学・官・地域の人的交流の場(ナレッジスクエア)の形成【市町村】
- ⑬ 地元産業の育成・高付加価値化【経済団体・市町村】
- ⑭ 産業を支えるインフラ整備【県・市町村等】
- ⑮ 農畜産業、食品産業等の活性化(アグリイノベーション)【伊那谷アグリイノベーション推進機構・JA・市町村】
- ⑤ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体+市町村+地域振興局】(再掲)

赤字：リニア開業に向けて、各機関が連携して喫緊に取り組むもの

黒字：既に取組が行われており、各機関において進めていくもの

※【】内は各取組の主体(事務局)となる機関

① 景観形成、共通サイン整備【三風の会+南信州広域連合】

取組と成果

- 三風モデル看板の設置【高森町、大鹿村】
 - ・南信州地域に設置(高森町2箇所)、設置を検討(大鹿村)
- 景観重点化路線の設定【景観形成プロジェクト会議(南信州広域連合)】
 - ・来訪者の観点からサイン整備、支障木除去等を重点化に行う路線を設定
- 中央アルプスのサイン整備【南アルプス自然環境保全活用連携協議会】
 - ・駒ヶ根区間へ先行して看板設置(7箇所:宝剣岳~檜尾岳)
 - ・14登山道の統一道標導入について、関係9市町村(南箕輪村、伊那市、宮田村、飯島町、松川町、飯田市、大桑村、上松町、木曽町)に概ね理解を得た
- 伊那谷ビュースポットの発掘【上伊那・南信州地域振興局】
 - ・「伊那谷のいいところフォトコンテスト」応募数1,473件(R4.12末)
 - ・市町村推薦ビュースポットの写真収集(10~3月 78カ所)

現状と課題

- 共通デザインによるサインの導入を目指していたが、南信州圏域では複数市町村で独自デザインによる整備を進めていることや財源確保の課題等もあり、一部町村で上伊那の三風モデルの採用を決めた以外はデザインの共通は困難

今後の方向性(案)

- 管内市町村へ三風モデル看板導入の目標再設定【南信州地域振興局】
 - ・管内市町村に意向を確認し、目標を再設定
- 伊那谷の隠れた景観発掘・発信の推進【上伊那・南信州地域振興局】
 - ・市町村と連携して、隠れた新たなビュースポットの環境整備を検討

② 広域二次交通の整備【行政+民間事業者】

取組と成果

- 広域二次交通のルート及びスケジュール案の検討【交通担当課長会議】
 - ・高速バスを主軸に、エリア毎（南信州、上伊那・木曽方面、松本・長野方面）のルート案策定
 - ・法的手続きや施設整備
- 3 圏域（上伊那・南信州・木曽）の広域的な公共路線をまとめたマップ作成【南信州地域振興局】
- M a a S の研修会開催・活用研究【交通担当課長会議】

現状と課題

- 役割分担を行ったものの、十分な検討を行える体制が整っていない
 - ・分担ごとに検討を進めることとしたが、それぞれの検討状況の共有が難しい
- 全体で共有すべき事項の検討の場が不明確
 - ・二次交通整備の考え方や次世代モビリティへの対応、需要予測の調査・分析等に関してどこが担うか不明確

今後の方向性（案）

- 二次交通整備の考え方や対応方針等を共有し、次世代モビリティへの対応など行う「リニア駅アクセス検討会議（全体会）」を新設【飯田市、県交通政策課、上伊那・南信州地域振興局】
 - ・飯田市が事務局を担い、県交通政策課や地域振興局も事務局として参画
 - ・南信州圏域を越える広域二次交通は、交通体系の検討を行うとともに、その状況について検討会議で情報共有する

⑤ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体+市町村+地域振興局】

取組と成果

- 「伊那谷deキャリア教育研修会」の開催【実務担当者会】
 - 参加者数 R 3 : 161名 R 4 : 144名
 - Facebook「伊那谷deキャリア教育」による情報発信【実務担当者会】
 - 地域の取組への相互参加【キャリア教育関係者】
 - ・上伊那・南信州相互の取組みを共有し、今後の活動に活かすためキャリア教育の研修会等へ相互参加
- ⇒ ・伊那谷の育成関係者が、地域の未来を語り合う機会となり、地域の枠を超えたつながりや一体感が醸成
- ・人口減少や高齢化など、地域の危機的現状及びキャリア教育の目指すべき方向性を共有
- ・事業の主旨に賛同し、協力したいとの意向を示す個人が徐々に増加

現状と課題

- キャリア教育の取組に対するスタンス（取組主体や手法）が地域ごと異なるので、全て統一的に進めることはできない
- 継続的に事業を進めるためには、予算も含めた推進体制の明確化が課題

今後の方向性（案）

- 連携可能なことを実施し、学び合う取組の継続【実務担当者会】
 - ・キャリア教育研修会の開催
 - ・SNSの活用
 - ・地域の取組への相互参加を促進
- 取組を継続していくための推進体制の構築【地域振興局、市町村・広域連合、産業界】

⑥ 周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備 【広域DMO+観光機構】

取組と成果

- 3 地域（上伊那・南信州・木曽）周遊コンテンツ・コースの検討
【伊那路・木曽路広域観光連携会議】
・旅行会社、メディアによるファミトリップの実施
（上伊那ー木曽、上伊那ー南信州、南信州ー木曽コース）
- 3 地域（上伊那・南信州・木曽）観光連携組織の立上げ
【伊那路・木曽路広域観光連携会議 プロモーション部会】
・3 地域への誘客を促進するためにR3に設立されたDMO・観光協会による伊那路・木曽路意見交換会を伊那路・木曽路広域観光連携会議のプロモーション部会に位置付け

現状と課題

- コロナ禍で変化した旅行者ニーズの把握
- リニア開業で拡大する新規市場を想定した集客力のあるコンテンツづくり

今後の方向性（案）

- リニア開業を見据えた観光マーケティングの強化
【地域振興局、市町村、DMO、県観光機構】
- 里山の資源を活用した体験型コンテンツの研究【南信州地域振興局、市町村等】
・関係者による勉強会・先進地視察など
- 2 つのアルプスを生かした山岳高原観光地域づくり【上伊那地域振興局】

⑩ グローバル経済圏で活動する企業のサテライトオフィス誘致やフルリモートで勤務する社員の誘致

⑪ 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進 ⑩ ⑪とも【県産業労働部・地域振興局+市町村】

取組と成果

- リニア開業と長野県駅の認知度を高める取組を強化【産業労働部等】
・各市町村への訪問により、県の企業誘致施策について意見交換を実施
・産業界（7団体）と、県の産業立地政策について意見交換を実施
・企業立地ガイドを活用し、県外事務所を中心に都市部企業へ立地優遇制度等の周知を実施
・2023年1月に大阪で開催されるJapan IT Weekに出展（1/18～1/20）
- サテライトオフィス利用促進【南信州地域振興局】
・東京、名古屋及び大阪事務所において、テレワーク施設のリーフレットを活用し、管内サテライトオフィスやワーケーション施設等の利用を促した
- 「おためしナガノ」事業の実施【産業労働部等】
・県外のクリエイティブ人材・企業に対し、県内に「おためし」で住んで仕事をする機会を提供
・19組27名の参加者決定（うち4名は辰野町、飯田市で実施）
- 「おためし立地 チャレンジナガノ」事業の実施【産業労働部・採択市町村】
・市町村の地域課題の解決に取り組む企業を募集・マッチングを実施
・県内外51事業者115件の応募（うち、飯田市、松川町、下條村で実施）

現状と課題

- 新幹線沿線の長野市や軽井沢等では、男女問わずクリエイティブ人材が次々集まり、IT企業も集積している
- 東北信地域と比べると、IT企業の立地件数が少なく、地域のポテンシャルを活かしきれていない

今後の方向性（案）

- 最先端デジタル社会実現事業（令和5年度当初予算要求）【産業労働部】
・リニア中央新幹線の開通により形成されるスーパーメガリージョンの経済的波及効果を最大限に活かすとともに、クリエイティブ人材や高度IT人材のはたらく場を創出し、国内外から若者が次々集まるまちをつくるため、市町村等と緊密に連携し、GAFAMをはじめとしたグローバルに展開するIT企業を呼び込む

長野県リニア活用基本構想 & リニアバレー構想

参考資料 1

～ リニア中央新幹線が創る信州の未来！ ～

長野県リニア活用基本構想 ～地域特性に応じて3つの交流圏を設定～

交 流 圏	地 域
伊 那 谷 交 流 圏	上伊那・飯伊地域 (リニアを活かし、大都市・世界とつながる)
リニア3駅活用交流圏	諏訪・木曽・松本地域及び近隣地域 (鉄道・道路・空港による多様な移動手段を選択)
本州中央部広域交流圏	長野県全域 (2つの新幹線、道路網を基軸に本州中央部の流動を創出)

リニアバレー構想 ～伊那谷がめざす姿～

- I 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点
～世界とつながる～
- II 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点
～日本を支える～
- III 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」
～ここで豊かに暮らす～
- IV 世界から人を呼び込む感動フィールド
～ここでふれあう～

めざす姿を実現するための取組

I リニアを活かした産業振興

伊那谷交流圏

【グローバル活動拠点】

- 外資系企業等の中核(本社・研究開発等)機能の立地
- 学術・研究機関が立地する“知”の集積地の確立
- 航空宇宙産業クラスターの形成
- 健康・医療・介護など健康長寿を支える産業集積



旧飯田工業高校

II 災害に強い地域づくり

伊那谷交流圏

【災害時のバックアップ・食料等の供給拠点】

- 企業の本社機能など都市機能の移転促進、居住地等整備
- 後方医療支援・災害活動拠点としての機能整備
- 農産物ブランド化、付加価値の高いアグリビジネス展開
- 木材の安定供給体制の構築、木質バイオマスの推進

III 信州暮らしの魅力向上

伊那谷交流圏

【移住定住・二地域居住の促進】

- 通勤・二地域居住ゾーンなど圏域内のゾーニングの検討
- 分譲地の整備、二地域居住に必要な環境整備・情報提供
- エコロジーに着目した生活スタイルの提案

【豊かに暮らすための地域づくり】

- 伝統文化の保存継承による郷土意識の醸成と担い手育成
- 郷土愛の醸成による新たな文化の創造
- 若者を惹きつける魅力ある地域づくり



千畳敷カール

【魅力ある自然環境の保全と景観の形成】

- 南・中央アルプスなど美しく雄大な自然環境の保全
- 看板デザインのルール化など調和のとれた景観形成

IV 広域観光の推進

伊那谷交流圏

【広域観光ルートづくり】

- 協議会を設置し、駅を拠点とした観光ルートづくり
- 交通事業者と連携した二次交通の確保・整備

【体験型観光の推進】

- 多様な体験ツーリズムの確立、ヘルスツーリズムの推進
- フィールドスタディの誘致
- 担い手の育成、効果的な情報発信



伊那市高遠地区

【外国人旅行者の誘客】

- 外国人旅行者向け観光ルートの形成、海外プロモーションの展開、観光情報の一元化・広域的連携

【豊かな自然と実績を活かした国際交流】

- グローバル人材の育成、自然や伝統芸能を活かした国際交流の推進

良好なアクセスの確保

伊那谷交流圏

- 高速道路へのアクセス性向上
- 高速道路と各地域の連携強化
- 駅周辺の広場・道路の整備、公共交通の路線再構築
- 乗換新駅設置など飯田線との利便性確保、飯田線の活性化

魅力ある駅空間の創造

伊那谷交流圏

- 駅舎デザイン、内装への県産材利用、特色ある植栽
- 駅構内への眺望施設整備、総合案内・物販施設等の設置
- 乗換えが円滑にできる駅前広場や駅周辺駐車場の整備
- 地域住民も利用できる賑わい施設の設置

山梨・岐阜県駅等との交流の拡大

3駅活用交流圏
本州中央部交流圏

- J R中央本線の利便性の向上、高速化・快適性の確保
- 山梨県駅と諏訪・松本地域を結ぶ高速バス路線の開通
- リニア利用者拡大に向けた連携、本州中央部広域交流圏構想に向けた検討会議の開催

伊那谷の「課題」と「可能性」

社会の変化

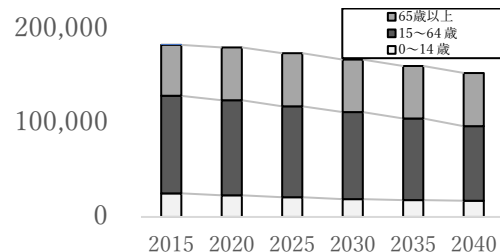
- 急激な人口減少・高齢化、首都圏への人口流出
- 生産年齢人口の減少
- Society5.0の実現で経済社会が大きく変貌（製造系雇用の減少、IT人材の不足）
- 世界経済に占める日本経済の地位低下
- 「物の豊かさ」から「心の豊かさ」への価値観の変化
- 求められる教育環境の変化

地域経済の課題

- 人口減少・流出。高齢化率が高く、地域の担い手が不足
- 豊かな自然環境が移住、観光誘客等に活かされていない
- 外国人旅行者数が少ない。日帰り観光が多く、一人当たり観光消費額が少ない
- 自家用車以外の移動手段が脆弱
- 国内外で、この地域の認知度が低い
- 全産業に占める情報通信業の割合が低い

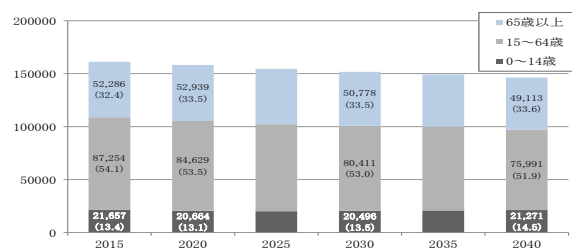
域内人口の減少 地域の衰退 域内経済の縮小

【上伊那地域の人口推移】



(注) 2015年は国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計

【南信州地域の人口推移】



(注) 2015年は国勢調査、2020年以降は社人研準拠推計

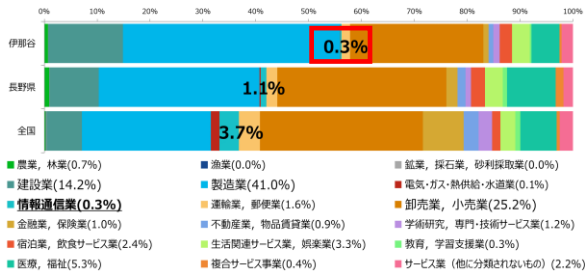
【リニア開業後の長野県駅への交通手段】
(伊那谷居住者の意向)



出典：リニア中央新幹線長野県駅とのアクセスのあり方調査事業報告書

(平成29～30年度実施)

【産業大分類別に見た売上高（企業単位）の構成比】



出典：RESAS（総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」再編加工）

【延べ宿泊数に占める外国人割合】



出典：「長野県観光地利用者統計調査結果」、「平成30年度訪日外国人観光動態調査事業」調査報告書（JTB総合研究所）

【主要6地域からの訪日外国人延べ宿泊数】



伊那谷地域の4つの可能性
(目指すべき方向性)

1 雄大なツインアルプスと天竜川が織りなすダイナミックな自然環境を活かす

2 良好な自然環境のもとで生活しながら大都市の利便性を享受できる立地を活かす
(東京は行くところ！伊那谷は住むところ！)

3 国際空港、三大都市圏等へのアクセスの良さを活かす
(国内外からヒト・カネを引き付ける)

4 リニアがもたらす新たなヒト・情報の流れを、産業・研究・人材育成等に活かす

人口減少に負けない持続可能な地域をつくる
大都市圏にない地域の価値を見出し、創り出し、磨き上げよう

伊那谷地域の戦略的チャレンジ(具体的な取組)

豊かな自然環境と地の利を活かした持続可能な地域づくり

1 伊那谷で暮らす魅力をつくり、定住人口を増やす

- ① 景観形成、共通サイン整備【三風の会＋南信州広域連合】
- ② 広域二次交通の整備【行政＋民間事業者】
(県交通政策課・地域振興局で枠組みを構築)
- ③ 移住定住・二地域居住のための住環境整備【市町村】
- ④ 自然を活かした教育環境の充実【市町村】
- ⑤ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体＋市町村＋地域振興局】

2 国内外から人を惹きつける地域をつくる

- ⑥ 周遊滞在型観光コンテンツづくり・受入環境整備【広域 DMO＋観光機構】
- ⑦ アルプス等自然環境の活用【県環境部】
- ⑧ 伝統文化の保存継承、活用【南信州広域連合】
- ⑨ 国際交流・語学教育の推進【市町村】
- ② 広域二次交通の整備【行政＋民間事業者】(再掲)
(県交通政策課・地域振興局で枠組みを構築)

3 地域を支える産業の活性化

- ⑩ グローバル企業の本社・中枢機能の立地促進【県産業労働部・地域振興局＋市町村】
- ⑪ 大都市圏の研究機関や企業の本社機能などの移転促進【県産業労働部・地域振興局＋市町村】
- ⑫ 産・学・官・地域の人的交流の場（ナレッジスクエア）の形成【市町村】
- ⑬ 地元産業の育成・高付加価値化【経済団体・市町村】
- ⑭ 産業を支えるインフラ整備【県・市町村等】
- ⑮ 農畜産業、食品産業等の活性化（アグリイノベーション）【伊那谷アグリイノベーション推進機構・JA・市町村】
- ⑤ 将来を担う世代が地域企業を知り、郷就につながるキャリア教育の拡充【企業・経済団体＋市町村＋地域振興局】(再掲)

赤字：リニア開業に向けて、各機関が連携して喫緊に取り組むもの
黒字：既に取り組が行われており、各機関において進めていくもの
※【】内は各取組の主体（事務局）となる機関

リニア開業に伴う今後の可能性

- 1 大都市圏と同一の交通圏
- 2 都市空間と自然環境空間が近接
- 3 リニア、高速道路、北陸新幹線で「本州中央部広域交流圏」を構築
- 4 国際空港、国際戦略港湾へ1時間でアクセス

● 新たなライフスタイルが実現することにより、移住・二地域居住が促進

● インバウンドを始めとする観光客が増加、観光消費額が増加

● 新たなヒトの流れが創出されることにより、産業・研究・人材育成等が促進

